

刻む会 たより

No.63

2016. 12. 23

長生炭鉱の水非常を歴史に刻む会

共同代表

井上洋子・内岡貞雄・木村道江

事務局

宇部市常盤町一―九(宇部緑橋教会内) TEL 0836(21)8003

カンパ振込先

ゆうちょ銀行 口座番号 01590732405

名義 長生炭鉱の「水非常」を歴史に刻む会

年会費

《正会員》個人3,000円 団体5,000円 《賛助会員》個人1,000円 団体2,000円

ホームページ

http://www.chouseitankou.com

メール

kizamukai@chouseitankou.com (※アドレスが変更になりました)

沖縄遺族捜しの旅

〜たどり着いた〜

共同代表 内岡貞雄

◇はじめに◇

「沖縄県出身者の犠牲者がね、五人もいるのはとても気になりますね」。故山口武信元代表がたびたび言われていたので、私はいつか沖縄へ遺族捜しに行かねばと思っていました。

昨年の6・23(沖縄慰霊の日)に参加した折、具志堅隆松さん(沖縄戦遺骨収集ボランティア「ガマフヤー」代表)のお世話で、下表にある方々の予備調査を行った。那覇市と沖縄市はさておき、名護市内三区の呉我(ごが)、源河(げんか)、安部(あべ)は、区長さんの丁寧な電話対応に少なからず期待を抱くことができた。

今年の11月28日(月)〜30日(水)にかけて遺族捜しの旅に出かけた。まず28日の午後1時から県庁記者クラブで記者会見に臨んだ。この会見は前述の具志堅さんがセッティングしてくださった。

長生炭鉱水没事故の県出身犠牲者の情報

犠牲者氏名(年齢)	現在の沖縄の住所	家族名
新垣 加那さん(46)	那覇市首里赤平町	甥・三郎さん
新垣 永光さん(40)	名護市安部	父・永吉さん
大城 惣助さん(41)	名護市呉我	妻・貞子さん
島袋 貞清さん(52)	名護市源河	母・マトカさん
仲松 三良さん(44)	沖縄市(旧越來村久田)	長男・勇さん

沖縄タイムス(2016.11.29) 「刻む会」情報提供

◇記者会見(県庁記者クラブ)

会見にはNPO法人「沖縄恨之碑の会」の安里英子代表と上間芳子事務局員のお二人にも同席いただいた。戦時中、韓国人・朝鮮人の命が軽んじられ人権が蹂躪された。「恨之碑の会」は、朝鮮人の誇りと名誉を取り戻す

運動の最中で、私たち「刻む会」と重なる部分を持つ。安里代表は、「平和の礎」に沖縄戦で犠牲になった二人の朝鮮人の刻銘を要望しているという訴えをされた。

会見で、長生炭鉱の水没事故は「人災」であり、多くの朝鮮人が強制労働させられた歴史を説明した。その後、遺族に会ったらどんなことを伝えたいかという記者からの質問があった。「74年前の長生炭鉱水没事故と2013年2月に追悼碑を建立したこと、しかし犠牲者の遺骨は海底下三十メートル前後の坑道内に放置されたままであること」、をまず伝えたいと答えた。隣席の具志堅さんが、

「戦争遂行のために石炭増産が奨励され、炭鉱労働者は『産業戦士』と呼ばれた。彼等は明らかに国策の犠牲者であり、国の責任を考えないといけない」と補足された。



県庁記者クラブでの記者会見

◇犠牲者の兄の孫・新垣砂雄さん

29日午後から名護市の市議会議員大城敬人（よしだみ）さんのお世話で、呉我区・源河区を聞き取りして回り、安部地区に着いたのは午後四時を過ぎていた。安部地区の新垣砂雄さんは犠牲者・新垣永光さんの兄の孫にあたる。（砂雄さんから見ると祖父の弟）約束の時間を大幅に過ぎてしまったが、富山真寿美区長さんの執り成しで、畑仕事の中の新垣砂雄さんとお話することができた。

砂雄さんは昨日、家系図を見たという。それによると、父は新垣永一、祖父の弟は新垣永幸と記されているという。長男砂雄さんの自宅は安部公民館の隣家で、彼は両親の仏壇を見ている。犠牲者・新垣永幸さんは三男で、子どもはなく、名護市に住む砂雄さんの弟が永幸さんの仏壇等の世話をしている。墓は兄弟みんなで守っている。早いうちに、弟さんに長生炭鉱の件で訪問者があった事を知らせたいと言われた。砂雄さんは65歳である。本土で様々な仕事をしたが、今は安部地区の畑で力ボチャを作っている。

別れ際に、「祖父の弟の事で沖縄まで来てくださったことを有り難く思います」と一礼された。私たちは笑顔で握手し再会を期した。

◇犠牲者の長男・大城惣徳（おおしろそうとく）さん

沖縄訪問最終日（30日）の午前11時過ぎ、市会議員の大城敬人さんから「遺族の大城惣徳さんの自宅が分かった」という連絡が入る。

すぐさま浦添市へ向かい、敬人さんと合流した。

以下は本人から聞き取った内容である。

- ・1938年に宇部で生まれ、事故の時は4歳だった。

- ・事故後、母は、私と次男の宗吉そしてやがて生まれる三男の惣成と、故郷の本部町へ帰った。

- ・会社から貰ったのは石ころ3個が入った箱とわずかの弔慰金（本人は補償金という）。

- ・帰郷後、やがて犠牲者惣助さんの故郷（国頭郡羽地村、現在は名護市呉我）に移った。

- ・長男・惣徳さんは小学校を卒業した12歳から一家を支えるために、馬の世話や木材搬出・運搬の仕事、日雇い土木等々、きつい力仕事をした。浦添市に移り住んでからはタクシー運転手の仕事をした。

- ・惣徳さんは78歳で、二年前に食道癌の手術をした。今は声帯回復につとめている。

- ・宇部は生まれた所なので、一度行ってみてみたい。

- ・惣徳さんは、事故の事や宇部の記憶はないが、母親貞子さんから水没事故の様子や遺骨がまだ収拾されていないこと、お父さんの人となりを聞いていた。



大城惣徳さん（中央）の自宅にて
右は大城敬人市議会議員

- ・惣助さんのお墓は名護市呉我にあるが、三回忌以降は訪ねる回数も少なくなったという。

- ・戦前に貞子さんは実父を訪ね長生炭鉱に行き、そこで惣助さんと出会って結婚した。帰沖してから長男の惣徳さんは病弱な母親を助けながら、弟と妹の面倒を見てきた。

惣徳さんは、私たちの訪問に戸惑いを見せながらも、次第に柔和なお顔で話された。私は嬉しい気持ちになった。

来年2月18日（土）の75周年追悼式の案内をして訪問を終えた。

◇終わりに

今回の遺族捜しで二人の遺族が判明した。お二人からの聞き取りは、時間の制約もあり十分とは言えなかったが、今後少しずつ信頼関係をつくりながら、話を聞かせていただこうと思う。

今回の成果の背景には、沖縄の人たちの広範なネットワークがあった。「ガマフヤー」代表貝志堅隆松さんをはじめ、紹介いただいた市会議員の大城敬人さん（10期40年近い議員生活）は「沖縄戦・反基地の闘い」を通して地域住民と日常的に繋がっていた。

沖縄の遺族の皆さんと一緒に、国への要請、すなわち、遺骨引き揚げの要求を行っていききたい。

遺族の皆さんの高齢化が進む中、一日も早く海底下の遺骨を故郷へお返しできる様、取り組みを強めたいと思う。

長生炭鉱を歩いて『過去の歴史』と向き合う

（ハングクチョンナムテハッキョ イルボン カンジェチンヨソクサキヘン エテハツセン）
（韓国全南大学校・日本 強制徴用歴史紀行の大学生 FW）

共同代表 内岡貞雄

【はじめに】

全南大学生（20名）とメン・チヒさん（リーダー）の一行は、11月4日（金）早朝に韓国の光州（クワンジュ）を出発、4時間余りバスに揺られてプサン金海空港に到着した。それから空路で福岡空港入り、下関の阿弥陀町で下車した後長生炭鉱へ向かった。長生炭鉱の現地では2時間程かけて、「追悼ひろば」↓「長生炭鉱第二坑」↓「長生炭鉱社宅（炭住跡）」↓「朝鮮人寮（収容所）」↓「炭鉱（ヤマ）の神祠」↓「本坑口跡」↓「長生海岸（献花）」を回った。

『青春の風』（チョンチュンパラム、今回の歴史紀行のテーマ）のもと、若い皆さんは「過去の歴史」と向き合うひとときを持てたのではないかと思う。

【下関にて】

チヒさんの要望で「日清講和記念館」の見学をする。「ニッコリ会」代表 鋤野さんのハングルによる説明に学生さん達は頷いていた。日清戦争（1894年7月～翌年3月）は、農民蜂起を指導者した全琫準（チョン・ボンジュン）と朝鮮王朝との内乱につけ込んだ日本軍が、朝鮮半島を戦場とし清国とはじめた戦争である。下関講和条約第1条で「朝鮮の独立」を清国に認めさせた日本帝国は、朝鮮植

民地支配の足掛かりをつかむ。また、清国に3億円（当時の日本国家予算の4.2倍に該当）の賠償金を支払わせ、「戦争は儲かるもの」というプロパガンダを行った。

赤間神宮前の阿弥陀寺公園内の「朝鮮通信使上陸淹留之地の石碑」（2001年8月竣工）は、今年1月、日韓の民間団体が共同で世界記憶遺産に申請したことを説明、隣接する国々との友好・平和は、昔も今もこれからも大切であることを伝えた。

【長生炭鉱FW】

長生炭鉱の「追悼ひろば」では、韓国遺族会の追悼文・「刻む会」の追悼文・ひろばの説明文を学生さんにハングルの部分を読んでもらう。3人の学生さんはハンドマイクを片手に流暢な韓国語で読み続け、学生さんらも集中していた。小畑事務局長の挨拶があり、これからの日韓の平和と友好を若い皆さんと共に担っていくことを確認する。

1939年に建てられた「合宿寮」（募集で連行した朝鮮人を収容した場所）で、どれほど多くの朝鮮人若者が故郷を思い出し涙したか、また1942年2月3日の事故で80名以上の若い命が犠牲になったこと（家族持ちの朝鮮人犠牲者は50名）、事故は当時の鉱山法に違反した人災であったことを説明した。

長生海岸で犠牲者を悼み、各自が献花をした。彼ら彼女らは献花後も、しばらくピーヤ沖を見つめていたのは、きっと心に記憶したことがあったのだろう。

【大学生3人の感想】

○下関での李鴻章の話や長生炭鉱の事は教科書にもなかったことで実際に見られてよかった。

○今朝早かったのですが、バスの中では船を漕いでしまいました。しかし実際に長生炭鉱の現場を見て分かることが多かったです。水没事故の事は初めて知りました。

○本当は韓国や日本の国が追悼碑を建立したりしなくてはいけないのに、「刻む会」や日本の方々が頑張っていることに感心しました。多くの人にも知らせなくてはと思いました。



ひろばの説明をハングルで読む

差別反対、仲良くしようとパレード

第3回ニッコリしようパレード in 下関

事務局 鋤野保雄

第3回ニッコリしようパレード in 下関が晩秋の11月23日、リトル釜山フェスタや農業祭、さかな祭で賑わう下関市内の公園で行われ、市中行進を行った。



「すべての外国人学校に愛を」
の横断幕を掲げて行進

不安だった天候も雨も降らずに安堵する中で、日本とコリア（韓国、朝鮮）の市民同士が仲良くしようという主旨に賛同する多くの市民の参加の中で行われ、「差別を無くし、仲良く生きよう、朝鮮学校を差別するな、下関を真の国際都市に」と街の人々に訴えた。

集会は先ず、シスター山本の歌で始まった。そして主催者代表が「朝鮮学校への高校無償化も朝鮮学校助成金復活、国連人権機関が日本政府へ、是正と教育差別禁止条約への加入を勧告している。国連人権機関の勧告に法的拘束力はないとしてそれを守らないことは、日本の人権が国際人権水準を大きく下回るこ

手に手にアピールを持って



ツヨシグリフォンさん



シスター山本さん



バザー前、友との出会い



サムルノリを演じてくれたビビムタ！
チャンゴ教室



60周年を迎えた山口朝鮮初中級学校の呉校長先生
下関は在日コリアンの出発の地であり故郷であると。

とになり、カローシやカロー自殺、重度障害者への差別意識を生んでいる。私たちは世界人権宣言の精神をふまえて、安倍政権とそれに追隨する行政に「差別を止めて、仲良くしよう」「朝鮮学校差別を止めよう」と訴えた。

各議員の挨拶、朝鮮学校のオモニ会や先生達からそれぞれ心のこもったメッセージがあり、今年60周年を迎えた山口朝鮮初中級学校の校長先生からも連帯メッセージがあり、「下関は私たち日コリアンの出発地点です」との言葉が印象的であった。

続いて行橋市市議による熊本地震のおり「朝鮮人が井戸に毒を投じた」というネット上の差別発言容認の記事の書き込みについて「公人のヘイトスピーチに反対する会」の松岡さんからの訴えや、「山口県児童養護施設における暴力事件」を巡る裁判を闘った広岡さんのアピールがあった。

その後、韓国伝統舞踊サムルノリを福岡のビビムタ！チャンゴ教室メンバーが鮮やかに躍った。その列に小さな子どもたちが付いて回っているのがほえましかった。

みんなが期待していた「歌うロボット」との共演は、こちら側の準備不足でロボットのバッテリー上がってしまい、ロボット無しハードロック・ヘヴィメタルのツヨシ・グリフォンさんの演奏が鳴り響いた。残念！まことに申し訳なかった。

そして、集まった人々の集合写真を撮ってから、パレードへ。みんな手に手にボードや

風船を持ち、シャボン玉を飛ばして行進。市民に「差別に反対、仲良く生きよう」「下関市を国際的な町に」「国連勧告守れ」等と声を上げて道行く人々に訴えた。今回いろんな人がマイクをもってアピールを行った。

戦後71年間、ずっと差別を受け続けて来た在日コリアンと共に力を合わせてこの差別政治を止めさせねばなりません。遅ればせながらも日本人が在日コリアン差別に反対して共に生きようと集会を持ちパレードをしたことは安倍首相の「足元」で意義深いことであった。

準備期間の短い中で多くの方々の賛同カンパとご協力によって80名を超える人々が参加してくれたことに自信を持ちたい。

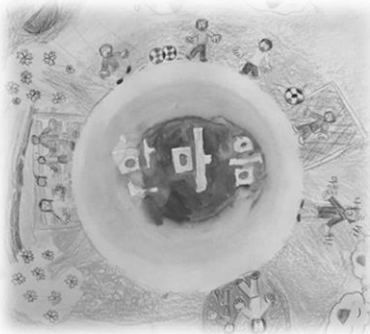
そして私は以下のことを確信した。その一つは日本政府が今なお、ユネスコの教育差別禁止条約（1960年採択）を批准せず、朝鮮学校差別

を続けていること。20

14年の人種差別撤廃委員会による朝鮮学校への差別是正の日本政府への勧告

の中では、この条約加盟を勧告されている。

次に世界人権宣言（1948年国連総会採択）の「人は生まれながらにして自由であり、かつ



한마음（ハンマウム、一つの心）で差別のない社会を！
絵は山口朝鮮初中級学校生徒たちの描いたもの。

その尊厳と権利において平等であり、差別してはならない」（第1条、2条より）の重みである。日本は平和憲法により基本的人権は保障されているというのが日本政府の立場であるが、敗戦後、在日コリアンを一方的に外国人化し、教育差別禁止条約を批准せず、また世界人権宣言に反した差別行政をしていることは、この国政府の戦前と変わらない植民地主義の体質が露呈している。戦後民主主義で日本国民には基本的人権、民主主義が保障されたが、在日コリアンには戦前の抑圧と差別が今なお本質的には変わっていないと。

そういう中で本年6月3日、「本邦外出身者に対する不当な差別的言動の解消に向けた取組の推進に関する法律」（いわゆる「ヘイトスピーチ解消法」）が施行された。その第3条は「国民は、本邦外出身者に対する不当な差別的言動の解消の必要性に対する理解を深めるとともに、本邦外出身者に対する不当な差別的言動のない社会の実現に寄与するよう努めなければならない。」と定めている。

「ヘイトスピーチを止めよう」と訴えることは今や国民の義務となっている。朝鮮学校への差別政策も国連が認めない差別であり是正しなければならない。そして日本政府が問われているということは主権者日本国民が問われていることになる。私たちの行動はまさに世界から日本に求められる人権水準に日本の人権を押し上げようとするものといえる。

最後に、来年はこれまでの経験を活かし、さらに楽しく有意義な差別反対の人権集会と

パレードができるように多くの方々のご協力を得て、それぞれの1年間の活動を、みんなにアピールする有意義でかつ楽しい場をつくるようにしていきたいと思います。



集合写真、これからパレードに向います！

会計報告（2016年9月1日～2016年11月30日）

（円）

【一般会計】

	科 目	年度予算	期間実績	実績累計	率	備考
	歳入					
1	会費	360,000	61,000	427,000	118.6%	
2	寄付金	1,200,000	69,460	454,991	37.9%	※
3	物販	60,000	1,000	13,900	23.2%	
	証言・資料集	30,000	1,000	7,600	25.3%	
	その他	30,000	0	6,300	21.0%	
4	雑収入	5,000	4,080	4,080	81.6%	
5	前期繰越金	0	0	0		
6	特別会計より繰入	0	0	0		
	合 計	1,625,000	135,540	899,971	55.4%	
	歳出					
1	事務費	55,000	9,643	49,462	89.9%	
2	広報費	280,000	48,030	89,749	32.1%	
3	会議費	30,000	0	0	0.0%	
4	追悼碑管理費	10,000	3,727	6,843	68.4%	電気代、修繕費
5	活動費	820,000	53,716	131,371	16.0%	
	学習会等	70,000	0	62,029	88.6%	
	追悼集会	500,000	0	0	0.0%	
	その他活動	250,000	53,716	69,342	27.7%	訪韓土産、諸派遣
6	他団体会費等	50,000	3,000	13,000	26.0%	
7	雑支出	40,000	4,896	17,556	43.9%	
	手数料	20,000	4,896	12,556	62.8%	
	その他	20,000	0	5,000	25.0%	
8	予備費	40,000	0	0	0.0%	
	小 計	1,325,000	123,012	307,981	23.2%	
9	特別会計へ繰出	300,000	0	0	0.0%	
10	繰越金	0	12,528	591,990		
	合 計	1,625,000	135,540	899,971	55.4%	

※ 寄付者（敬称略）

石田 耕一	出穂 敏恵	今本 陽子	浦部 昭一	呉 世 憲	岡田美代子
小田 隆弘	河合 喜代	川上 和恒	川口 玉留	木下美佐江	木原 千成
古賀 明江	小暮 房子	坂 貞子	島村真知子	愼 民子	関谷 陽子
田上 中	田崎 敏孝	田中 真理	谷本 育紀	戸井 幸子	鳥野小百合
中山 幸雄	舩富あさ子	三浦 翠	全南大学有志	（その他匿名 4 名）	

会員数（2016年12月16日現在）

正会員 95 名（個人 85 名・団体 10 名）／賛助会員 193 名（個人 186 名・団体 7 名）／寄付者 100 名

【追悼碑特別会計】

収入			支出		
科目	金額	備考	科目	金額	備考
前年度繰越金	1,978,116				
繰入金	0		繰越金	1,978,116	
合 計	1,978,116		合 計	1,978,116	

【遺骨収集等特別会計】

収入			支出		
科目	金額	備考	科目	金額	備考
前年度繰越金	1,517,660				
繰入金	0		繰越金	1,517,660	
合 計	1,517,660		合 計	1,517,660	

以上感謝をもってご報告いたします。引き続きのご支援をお願い申し上げます。

運営委員会報告

(2016年9月24日～2016年12月16日)

事務局長 小畑太作

【委員会開催】

1. 第7回 10月21日(金) 欠席3名。
2. 第8回 11月24日(木) 欠席3名。
3. 第9回 12月15日(金) 欠席3名。

【追悼ひろば】

韓国在住の美術家による脚本『アボジは海の底』に沿った絵画設置の連絡調整。

【遺骨等收拾】

1. 政府交渉のために仲介を要請していた地元国会議員が辞退したため、別議員に仲介を依頼するための準備に着手。
2. 遺族データベースを引き続き作成中。在日遺族のDNA検体採取を計画。
3. 沖縄在住の遺族を探すため、内閣共同代表を派遣。2名の遺族の所在が判明。

【追悼集会】

来会予定の韓国観音宗との連絡調整及び実施内容について検討。

【宇部市長との協議】

第32回長生炭鉱水没事故問題解決協議会(11月29日(火))に参加。市役所側は、従来の地域福祉課・教育委員会・国際政策課に加えて、この度は広聴課より計5名が出席。市民側は5名(「刻む会」運営委員ならびに会員)が参加。

1. ピーヤの説明板について

11月30日(水)「長生炭鉱のピーヤ(旧長生炭鉱排気竪坑)に関する説明板についての要望」を有識者・団体代表など43名の賛同者を得て提出(P8～9参照)。

2. ピーヤ等の保存

ピーヤの史跡登録の申請について、市教委が「所有者なし」を理由に取り扱わないことの法的根拠について協議。史跡登録が不可というならば、他の保護措置の提案を要求。

護岸工事については、ピーヤが遠くなることに對して、追悼集会開催のため、現場近くの空き地の使用許可を要請。これに對し市役所側は、当該地は宇部市の土地か未明の土地であるため「許可」する立場にない旨回答。

3. 市民への教育

「宇部市石炭記念館」への展示についてCG化を専門家に依頼中。

4. 追悼集会への協力

宇部市後援について、拒否する旨の回答書を得、これについて協議。拒否の理由として記されていることは以前の市長見解と矛盾していることを指摘。再検討を要請。

5. 「遺骨等の収集と返還」「追悼碑への協力」については時間が無く継続。

第33回協議会は3月か4月開催の予定。日程は市役所よりの連絡待ち。

【関係資料収集】

紙媒体資料と映像資料のいずれも、デジタル化を進行中。将来的にはインターネット上にライブラリを解説し設置していく予定。

【資料の発行】

1. 韓国で出版されている長生炭鉱に関する書籍の日本語版出版に向けて、遺族会を介して著者との連絡調整を継続。

2. 当会創立25周年に当たり『記念誌』『証言・資料集』第三集として次回追悼集会での発行を目標に準備継続。

【山口朝鮮初中級学校への補助金停止問題】

1. 「朝鮮学校を支援する山口県ネットワーク」に参加協力し、毎月開催の県庁前抗議行動と座談会ならびに下関市役所への申し入れ行動に引き続き参加。

2. 宇部市議会への請願について『議会だより』報告に、市教委の憲法と国際条約についての未検討発言が削除されていることに對して、9月8日(木)修正の要望書を提出。10月12日(水)付で回答書を得るも不十分であり、11月7日(月)付で再度要望書を提出。文書での回答待ち。

3. 同校に對する寄付金について、9月9日(金)申込書を提出。9月23日(金)付不受理の回答。

4. 10月21日(金)付宇部市教育委員会に補助金支給再開の要望書を提出。11月21日(月)付拒否の回答。

【その他】

「第7回部落解放・人権確立をめざす県民の集い」に井上共同代表を派遣し出店。

「第3回ニッコリしようパレード」に参加。出店。

長生炭鉱の水非常を歴史に刻む会
〒755-0031 山口県宇部市常盤町1丁目1-9 Tel&Fax 0836-21-8003
kizamukai@chouseitankou.com http://www.chouseitankou.com/

2016年11月30日

宇部市長 久保田后子 様
宇部市議会議員 重枝 尚治 様
宇部市教育委員会
教育長 野口 政吾 様

長生炭鉱の水非常を歴史に刻む会
共同代表 井上洋子・内岡貞雄・木村道江
〒755-0031 宇部市常盤町一丁目1-9
Tel & Fax 0836-21-8003

長生炭鉱のピーヤ（旧長生炭鉱排気竪坑）に関する説明板についての要望

日頃より市民の文化・教育向上のためにご尽力くださり感謝いたします。

さて、宇部市は、当会が20年来にわたり設置を要望してきた長生炭鉱ピーヤに関する説明板を、3年前に「長生炭鉱と石炭産業」と題して漸く製作して下さり、2013年7月19日に設置予定の運びとなりました。しかしながら、その直前に記載の説明文を示された当方は、このままの設置は看過できないと判断し、設置延期を要請し、以降、未設置のまま今日に及んでおります。当方が設置延期を要請した理由は、そこに記されていた説明文に到底看過できない問題があるからに他なりません。

製作以前から当会は、こうしたことがないように、宇部市ならびに宇部市教育委員会には注意を喚起し、文案も提示してきましたが、制作された説明文が現したことは、残念ながら、宇部市ならびに宇部市教育委員会は当会の言葉に殆ど耳を傾けて下さっていなかったということでありましょう。そこで、設置延期以降も当会は、説明文の問題点を幾度となく説明すると共に、修正のための妥協案を示してもきました。しかしながら宇部市ならびに宇部市教育委員会は、これも聞き入れて下さることなく、未だ設置延期が継続している次第です。

そこでこの度、改めて以下に、主要な問題点を説明した上で、説明文の修正を要望します。

1. 史実と異なっていること

私たちが特に問題とするのは、説明文の最後の段落です。次のように記されています。

周辺では新浦炭鉱（大正8年開鉱）や常盤炭鉱（昭和22年開鉱）などでも石炭の採掘が行われていました。石炭は郷土の産業経済だけでなく、国のエネルギー政策を支えてきました。私たちは先人たちの命をかけた炭鉱への思いを未来へと継承していかなければなりません。

説明板はピーヤの見える場所に設置されるもので、上記の文章の前には、長生炭鉱水没事故犠牲者の記述があり、当然、説明板を読む人たちは「先人たちの命をかけた炭鉱への思い」を、長生炭鉱犠牲者と重ね合わせることになります。

しかしながら、水没事故犠牲者の大半は朝鮮半島出身者であり、強制的に連れてこられた人々、あるいは農耕地を失いやむなく渡航した人々です。そうした人々が、積極的に炭鉱に「命をかけた」事実はありません。従って説明文は、犠牲者の想いや願いを歪曲したものといわざるを得ないのです。

2. 遺族を再び傷つけること

もし遺族が、このままの説明文を目にしたならば、過去の悼みに加えて、新たな痛みを負わせてしまうことになるでありましょう。故に、駐広島大韓民国総領事館も、説明文を容認できないとしている訳です。

3. 侵略戦争の肯定を連想させること

更に指摘の部分には、「石炭は郷土の産業経済だけでなく、国のエネルギー政策を支えてきました」とある訳ですが、当時の国策とは、帝国主義と侵略戦争に他なりません。それを「未来へと継承していかなければなりません」というのは、所謂、歴史修正主義的歴史観を呈していると言わざるを得ず、これまでの日本政府見解とも乖離しています。

また、説明文は、強制連行や強制労働の史実に全く触れていませんが、長生炭鉱とは正にそれであったことは周知の事実です。従って、この説明文では、設置者である宇部市が、歴史の真実に向き合うことにおいて不誠実であることを現していると解されることは十分予想されることです。

以上、改めて、宇部市教育委員会が作成した「長生炭鉱と石炭産業」の説明板の問題点について説明しました。

別紙に改めて修正説明文案を提示申し上げますので、どうかこれを踏まえて下さり、説明板の修正ならびに設置を要望するものです。

以上

11月30日(水)「長生炭鉱のピーヤ（旧長生炭鉱排気竪坑）に関する説明板についての要望」を提出しました

【賛同者】(五十音順)

李 一 満 (東京朝鮮人強制連行真相調査団事務局長)
 李 洋 秀 (船橋市)
 宇都宮健児 (弁護士／元日本弁護士連合会会長)
 呉 充 功 (映画監督)
 小笠原正仁 (株式会社阿吡社代表取締役)
 小野 政美 (元教員)
 加藤 圭木 (一橋大学大学院社会学研究科専任講師)
 兼崎 暉 (八幡製鐵元微用工問題を考える会会員)
 川瀬 俊治 (奈良・発掘する会事務局長)
 川村 一之 (戦争被害調査会法を実現する市民会議事務局長／元新宿区議会議員)
 北村めぐみ (広島宗教者平和協議会)
 金 哲 秀 (東京朝鮮人強制連行真相調査団事務局長)
 金 尚 均 (龍谷大学法科大学院教授)
 金 敏 寛 (弁護士)
 金 英 丸 (民族問題研究所対外協力チーム長)
 郡島 恒昭 (浄土真宗本願寺派(西本願寺)僧侶)

11/30 までに有識者・団体代表などに呼びかけたところ、この43名の方々に賛同をいただきました。今後、宇都市の対応次第では、幅広く市民へ訴え、賛同者を増やしていくことも検討しています。ご支援・ご協力をよろしくお願いします。

小林 知子 (福岡教育大学教授)
 小林 久公 (過去と現在を考えるネットワーク北海道代表)
 佐藤 信行 (在日大韓基督教会在日韓国人問題研究所(RAIK)所長)
 下島 義輔 (中津川市)
 新藤 允 (東アジアの平和と友好を求める民衆の会事務担当)
 徐 根 植 (兵庫朝鮮関係研究会代表)
 空野 佳弘 (朝鮮人強制連行真相調査団日本人側全国連絡協議会事務局長)
 高實 康稔 (長崎在日朝鮮人の人権を守る会)
 高橋 信 (名古屋三菱・朝鮮女子勤労挺身隊訴訟を支援する会 共同代表)
 竹内 康人 (歴史研究者)
 塚崎 昌之 (在日朝鮮人運動史研究会関西支部)
 寺尾 光身 (名古屋工業大学名誉教授)
 殿平 善彦 (一乗寺住職)
 中田 光信 (強制動員真相究明ネットワーク事務局長)
 西澤 清 (東京朝鮮人強制連行真相調査団代表／日本退職教職員協議会会長)
 野口千恵子 (日本軍「慰安婦」問題解決のために行動する会・北九州)
 花房恵美子 (福岡市)
 飛田 雄一 (神戸学生青年センター館長)
 福林 徹 (亀岡市)
 古川 雅基 (在韓軍人軍属裁判の要求実現を支援する会)
 堀江 節子 (富山市)
 御園生光治 (在韓軍人軍属裁判の要求実現を支援する会)
 矢野 秀喜 (強制連行・企業責任追及裁判全国ネットワーク事務局長)
 大和裕美子 (九州共立大学講師)
 山本 晴太 (弁護士)
 山本 直好 (日本製鉄元微用工裁判を支援する会事務局長)
 渡辺 美奈 (アクティブ・ミュージアム「わたしの戦争と平和資料館」(wam)事務局長)

以上

【修正案】

目の前の海から突き出ている二本のピーヤ(排気・排水竪坑)は、昔、ここに長生炭鉱という海底炭鉱があった名残です。
 長生炭鉱は1914年(大正3年)に開鉱された海底炭鉱で、最盛期には炭鉱内外で約千名の人が働き、年間約16万トンを出炭していました。1942年(昭和17年)2月3日午前9時ごろ、本坑口から約1キロメートル沖合において海水が坑道に流入し、水没事故(水非常)が起こりました。
 この事故で183人もの労働者が犠牲となりました。そのうち136人は、日本の植民地時代に朝鮮半島から強制的に連行された朝鮮人労働者でした。犠牲者は一人として遺体を引き上げられることなく、未だに冷たい海に眠っています。
 1982年には、地元有志によって「殉難者之碑」が、2013年には、地元市民団体「長生炭鉱の水非常を歴史に刻む会」によって「犠牲者追悼碑」が、建立されました。また、西光寺には、当時作成された犠牲者の位牌が保存されています。

2016年 月 宇都市

海に沈んだ長生炭鉱

【2013年に宇都市が作成した説明文】

長生炭鉱と石炭産業

宇都市は石炭によって発展してきました。石炭は黒ダイヤと呼ばれ多くの利益をもたらしてきました。一方で、地下や海底で作業を行う炭鉱では、事故により、多くの犠牲者を出してきた歴史があります。
 長生炭鉱は大正三年(一九一四年)に開鉱された海底炭鉱で、最盛期には炭鉱内外で約千名の人が働き、年間約一六万トンの石炭を出炭していました。昭和十七年(一九四二年)二月三日、本坑口から約一キロメートルの坑道内で異常出水し、坑内で働いていた一三六名の朝鮮半島出身者を含む一八三名が犠牲になりました。
 眼前の海中に立つコンクリートの円柱二基はピーヤ(坑)と呼ばれる、坑道内の換気のための竪坑で、当時の長生炭鉱の名残りを今に伝えています。
 周辺では新浦炭鉱(大正八年開鉱)や常盤炭鉱(昭和二年開鉱)などでも石炭の採掘が行われていました。石炭は郷土の産業経済だけでなく、国のエネルギー政策を支えてきました。私たちは先人たちの命をかけた炭鉱への思いを未来へと継承していかなければなりません。

平成二五年(二〇一三年)七月 宇都市

活動日誌

(前回たより以降)

※太字：詳細は記事にて紹介

2016年

▽9月30日(金) 韓国観音宗との打ち合わせ

▽10月4日(火) 韓国国慶日レセプション

▽10月7日(金) ニッコリしようパレード打ち合わせ

▽10月7日(金) 見なおし世なおしフォーラム

▽10月10日(月) 無窮花堂の秋季追悼式

▽10月12日(水) 山口朝鮮初中級学校補助金力

▽10月20日(木) ニッコリしようパレード打ち合わせ

▽10月21日(金) 第7回運営委員会

▽11月4日(金) 全南大学FW

▽11月9日(水) 山口朝鮮初中級学校補助金力

▽11月11日(金) 証言資料集作成のための作業

▽11月23日(水) ニッコリしようパレード

▽11月24日(木) 第8回運営委員会

▽11月25日(金) 第7回部落解放・人権確立をめぐす県民の集い

▽11月28日(月) 30日(水)

▽11月29日(火) 第32回長生炭鉱水没事故問題解決協議会

▽12月14日(水) 山口朝鮮初中級学校補助金力

▽12月16日(金) 第9回運営委員会

二度と歴史を繰り返してはいけない

公人のヘイトスピーチを許さない会

松岡 節子

2016年5月福岡の市民が集い公人のヘイトスピーチを許さない会を結成しました。

この会は、4月14日の熊本地震の折、「『朝鮮人が井戸に毒』に大騒ぎするネトウヨとブサヨどもに言いたい」と題し産経デジタルに寄稿した行橋市議の論評内容を問題としました。「まず結論から述べるが、『に始まる』『朝鮮人が井戸に毒を入れた』と言うデマが飛び交うことに対しては仕方がないという立場である」と書かれた文章は、差別言動容認への立場であり、公人の立場に在るものとしては許されないと、論評の取り下げと謝罪を求めて活動しています。私も立ち上げから参加してきました。その理由は、在日二世の映画監督との出会いでした。

呉充功(オチュンゴン)監督の関東大震災の記録映画の製作に全霊を懸けた生き方に出会ったことからでした。2015年に5回に涉り東京に出向き監督の案内で東京荒川、豊島、横堀町の東京都慰霊堂、亀戸、千葉馬込霊園、船橋、高津観音寺などの朝鮮人が殺害された現場を巡りました。関東から程遠い九州の地で育った私にとって教科書で習った震災の記憶がかすかにありましたが、初めて知ることばかりでこの事実に激しい衝撃を受けました。それが現在にも及ぶ日本社会の根深い問題だ

と知ったのは、4月熊本地震時のインターネットに流れた悪質なデマの中に「朝鮮人が井戸に毒を入れた」と大量に書き込みがあったことからです。

1923年9月1日に起こったM7.9の関東大震災で1府6県が被災しその混乱の中で朝鮮人が放火・爆弾所持・井戸に毒を入れているなどの流言飛語によって各地で在郷軍人・青年団員・消防団員を中心に自警団が結成されました。この自警団によって多くの朝鮮人が虐殺されました。時の政府は、震災直後の9月2日には戒厳令警告を宣言し、9月3日の朝には、海軍の船橋無線送信所から全国の県知事宛に電文を送っています。このことから政府が積極的な不安をかきたて、流言を広げることに関与したと伺えます。(※資料1)

「内務省警保局長から全国の知事への電文(9月3日船橋無線送信所発)」



日本政府は公のルートで「流言蜚語」を全国に伝え拡げた。

※資料1 「関東大震災朝鮮人虐殺の国家責任を問う会」パンフレットより

殺害された朝鮮人は、数千人と言われていますが、名前・正確な人数・遺骨さえわかって

ない状態です。当事帝国議会で2人の議員が責任追求を山本権兵衛首相にしましたが、「目下調査中」との回答から、93年を経た現在でも国家による真相究明がなされていない実情です。

呉監督の2作目に当たる「払い下げられた朝鮮人」は、千葉習志野にあった陸軍の収容所に保護の名目で収容した朝鮮人を習志野近郊の村人に引き取らせ殺害した証言記録映画でした。東京都内の派出所に助けを求め留置所に収容された朝鮮人の多くが習志野収容所に移送されました。千葉の高津観音寺には犠牲者の魂を讃える普化鐘樓が、韓国のシム・ウソンさん（韓国民族劇研究所所長）と故キム・イギョンさん（劇団現代劇場理事）によって寄贈されています。お二人は関東大震災朝鮮人虐殺の真相究明のため生涯を捧げられ、又自費を投じて鐘樓建立に奔走されています。

今年8月19日、20日、ソウルにおいて初の関東大震災93周年追悼行事が行なわれました。日本から「国家責任を問う会」や各地で追悼・調査を行っている市民団体と一緒に、「公人のヘイトスピーチを許さない会」からも、展示とアピールの為、2名（私も）参加しました。追悼式の前夜祭には監督の三作目になる「93年間の沈黙、1923ジェノサイド」の予告編が上映されました。埼玉で殺害された遺族探しの内容でした。上映会場には埼玉、亀戸で殺害された遺族が来られていて、未だお骨が無い飯墓にせめて亡くなった場所の土を入れてあげたいとの言葉に胸が詰まりまし

た。いわれなく殺害されたかたがたの無念と、2代、3代にも続く遺族の慟哭を、私たち日本社会は加害の歴史として深く受け止めなくてはならないと思います。光化門での追悼式では今年83歳の韓国の人間国宝のシム・ウソンさんが、ノクチョン（犠牲者を表す紙人形踊り）を踊られました。（右写真）



ノクチョン（犠牲者を表す紙人形踊り）を踊る韓国の人間国宝 シム・ウソンさん（83歳）

2009年から全国的に浮上り表面化してきた在日朝鮮人へのヘイトデモ。又、京都朝鮮学校への襲撃事件などに現れた、朝鮮学校で学ぶ子供たちに対する不当な差別などは、日本社会の問題性を浮き彫りにしています。しかし、各地でヘイトデモを止めた取り組みや、「長生炭鉱の水非常を歴史に刻む会」のように個々の地道な活動をしている皆さんとの出会いも沢山ありました。日本人の一人一人が植民地政策に起因する朝鮮人差別の歴史に向き合わなくてはならないし、私自身も、各地の心ある方々と情報を共有し、交流しながら、対等・平等な人種差別のない地域社会を目指して一歩でも努力してこうと思っています。



去る11/25、「第7回部落解放・人権確立をめざす県民の集い」で李信恵さんのお話を聞きました。李信恵さんは反ヘイト・スピーチ裁判（大阪地裁で9/27勝訴）の原告です。裁判に至る過程など、心の葛藤も含めたお話に、差別を受けた心の傷の深さを感じ、涙しました。裁判に至る経過を綴った『#鶴橋安寧』（影書房刊）という本をその場で購入し、今読んでいます。（山内）

『刻む会たより No. 62』掲載記事の修正について

前号掲載の愼蒼宇さんの講演報告の記事の中で、3つの歴史的な固有名詞が間違っていると、読者よりご指摘がありました。ご指摘ありがとうございます。以下のとおり修正します。

いずれも 8頁 中段

・後ろから11行目：「第三次日韓条約」

→「第三次日韓協約」

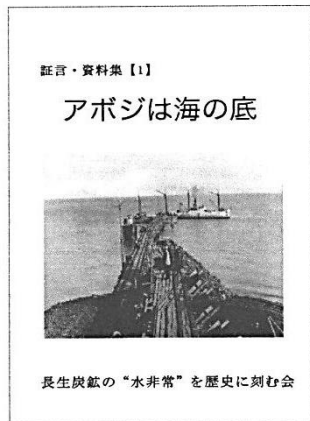
・後ろから1行目：「伊藤博文総監」

→「伊藤博文統監」

・後ろから1行目：「長谷川好通」→「長谷川好道」

ご案内

事務局で取り扱っている書籍のご案内です。ご希望の方は、事務局までご連絡ください！



証言・資料集【1】【2】

絶賛！好評発売中！

頒布価格 1冊 300円

【1】【2】セットで 500円

☆待望の第3集を

追悼集会にて発刊発売予定です！

【1】【2】と合わせて、ぜひお買い求め下さい！

「日本の長生炭鉱水没事故に関する
真相調査」報告書(日本語版)
大韓民国 対日抗争期強制動員被害調査及国
外強制動員犠牲者等支援委員会 編



カンパ1000円
以上で差し上げて
います。

山口武信追悼文集



山口武信さんを偲ぶ
様々な方々の寄稿や
山口武信さんの初期
の論文や NHK ラジオ
深夜便なども掲載さ
れています。
ご希望の方に差し上
げます。

【長生炭鉱水没事故75周年犠牲者追悼集会】

今年は、韓国より観音宗の僧侶・信徒の方々
約 150 名が参列予定です。

また、国内・韓国より犠牲者遺族をお招き
しています。ぜひご来場ください。

また、遺族招聘のためのカンパも随時受け
付けています！ご協力をお願いします。

**追悼集会 2017年2月18日(土)
14～16 時
長生炭鉱追悼ひろばにて**

「刻む会」では新規会員を 随時募集中です！

☆「正会員」と「賛助会員」の二種があります。

正会員 会費： 個人 3,000 円／年
団体 5,000 円／年

※総会議員となり、総会（5月）
での議決権を有します。

賛助会員 会費： 個人 1,000 円／年
団体 2,000 円／年

ご希望の方は、①会費を添えて直接事務局へ持参下
さるか、②郵便振込用紙にて入会希望の旨を記載
し、会費を振り込んでください。

※なお、会計年度は4月1日～翌年3月31日です。

その他、カンパも随時受け付けています。

会費又はカンパを下された方には『刻む会たよ
り』をお送りします！

※「たより」同封物 … 追悼集会チラシ、振込用紙